

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成25年8月13日

【四半期会計期間】 第72期第1四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

【会社名】 名糖産業株式会社

【英訳名】 Meito Sangyo Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 水谷 彰 宏

【本店の所在の場所】 名古屋市西区笹塚町二丁目41番地

【電話番号】 052(521)7111

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 山崎 潔

【最寄りの連絡場所】 名古屋市西区笹塚町二丁目41番地

【電話番号】 052(521)7111

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 山崎 潔

【縦覧に供する場所】 名糖産業株式会社 東京支店
(東京都府中市日鋼町1番22号)

名糖産業株式会社 大阪支店
(大阪市福島区福島六丁目13番7号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第1四半期連結 累計期間	第72期 第1四半期連結 累計期間	第71期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	4,133	3,881	19,216
経常利益 (百万円)	79	78	31
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失() (百万円)	77	20	47
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	656	558	2,480
純資産額 (百万円)	30,197	33,618	33,378
総資産額 (百万円)	41,031	45,279	45,850
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額() (円)	4.61	1.24	2.85
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	73.2	73.7	72.3

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第71期および第72期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
第71期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、デフレ脱却を目指した国の経済政策に伴う株高などを支えとして、高額商品などに対する消費者心理が上向き、緩やかな回復を始めました。また、企業の景況感も、円安や米国の景気回復を追い風とする輸出関連企業を中心に改善に向かいました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、円安により原材料価格が上昇する一方で、嗜好品に対する購買意欲が上向きまでには至らず、企業間競争がますます加速して厳しい事業環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の安全性確保と品質の向上に引き続き注力するとともに、お客様の要望を的確に捉えた高付加価値商品の提供ならびに積極的な販売促進活動を推し進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて6.1%減の3,881百万円となりました。営業損益につきましては、事業活動の効率化やコストの削減に努めましたが、売上高の減少ならびに売上原価率の上昇などにより、261百万円の損失となりました。前年同期は171百万円の営業損失でありました。また、経常利益は前年同期に比べ1.8%減の78百万円となり、四半期純利益につきましては、特別損失に投資有価証券評価損43百万円を計上しました結果、20百万円となりました。前年同期は77百万円の純損失でありました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

食品事業

当第1四半期連結累計期間におきましては、主力の菓子部門は消費者の節約志向が根強く、企業間競争が激化して減収となりました。チョコレート類は、「ベストアソートチョコレート」などのファミリータイプの商品や「ぷくぷくたい」をはじめとするエアインチョコレートの売上が減少しました。キャンディ類の売上も落ち込みました。

粉末飲料部門は、主力の「レモンティー」や「ロイヤルミルクティー」などが厳しい販売競争の影響を受けて減収となりました。

また、主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、新商品を投入して販売促進活動を推進しましたが、減収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースベーカリーは、積極的な商品提案や営業施策を展開しました結果、ゼリー類の売上は伸びましたが、主力のパウムクーヘン類が苦戦して減収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ7.8%減の3,314百万円となりました。営業損益につきましては、売上高の減少や売上原価率の上昇などにより、114百万円の損失となりました。前年同期は38百万円の営業損失でありました。

化成品事業

酵素部門につきましては海外を主な市場としており、円安の追い風を受けるなか、顧客獲得を目指して精力的な販売促進活動を推進しました結果、チーズ用凝乳酵素「レンネット」および脂肪分解酵素「リパーゼ」はともに増収となりました。

また、薬品部門につきましては、医薬品、X線フィルムなどの原料用の「デキストラン」は増加しましたが、「デキストランマグネタイト」のうちMRI（磁気共鳴画像）診断用肝臓造影剤『リゾビスト』の原薬である「フェルカルボトラン」の減少が影響し、減収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期に比べ8.1%増の496百万円となりましたが、営業損益につきましては、減価償却費の負担に加え販売品目構成の影響などにより、10百万円の損失となりました。前年同期は1百万円の営業損失でありました。

不動産事業

不動産事業につきましては、昨年12月に持分法適用関連会社との工場の賃貸契約が終了したことなどにより、売上高は前年同期に比べ12.5%減の70百万円となり、営業利益は前年同期に比べ20.5%減の28百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ570百万円減少して45,279百万円となりました。また、負債は前連結会計年度末に比べ810百万円減少して11,661百万円となり、純資産は前連結会計年度末に比べ239百万円増加して33,618百万円となりました。この結果、自己資本比率は73.7%となりました。

増減の主なものとして、資産の部では受取手形及び売掛金が830百万円減少し、投資有価証券が539百万円増加しました。負債の部では流動負債のその他に含まれる短期借入金が580百万円減少し、純資産の部ではその他有価証券評価差額金が537百万円増加しました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は183百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	21,265,000	21,265,000	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	21,265,000	21,265,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

当第1四半期会計期間において、発行した新株予約権はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日		21,265		1,313		76

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である平成25年3月31日現在で記載しております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,462,800		単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,726,500	167,265	同上
単元未満株式	普通株式 75,700		
発行済株式総数	21,265,000		
総株主の議決権		167,265	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」および「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ1,800株(議決権18個)および90株含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式81株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 名糖産業株式会社	名古屋市西区笹塚町二丁目 41番地	4,462,800		4,462,800	20.99
計		4,462,800		4,462,800	20.99

2 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)および第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,821	2,295
受取手形及び売掛金	1 4,062	1 3,232
有価証券	785	1,038
商品及び製品	880	926
仕掛品	354	345
原材料及び貯蔵品	709	768
その他	274	261
貸倒引当金	20	7
流動資産合計	9,868	8,860
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,054	5,028
その他(純額)	7,065	7,013
有形固定資産合計	12,120	12,042
無形固定資産	81	76
投資その他の資産		
投資有価証券	23,374	23,914
その他	478	460
貸倒引当金	73	75
投資その他の資産合計	23,779	24,299
固定資産合計	35,981	36,418
資産合計	45,850	45,279

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,872	1,696
1年内返済予定の長期借入金	914	914
未払法人税等	27	7
返品調整引当金	7	4
その他	2,419	1,721
流動負債合計	5,242	4,344
固定負債		
長期借入金	1,922	1,693
繰延税金負債	2,784	3,043
退職給付引当金	2,139	2,226
役員退職慰労引当金	16	16
その他	365	336
固定負債合計	7,229	7,316
負債合計	12,471	11,661
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,313	1,313
資本剰余金	76	76
利益剰余金	33,662	33,347
自己株式	8,544	8,544
株主資本合計	26,507	26,191
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,640	7,177
その他の包括利益累計額合計	6,640	7,177
新株予約権	230	248
純資産合計	33,378	33,618
負債純資産合計	45,850	45,279

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	4,133	3,881
売上原価	2,942	2,838
売上総利益	1,190	1,042
販売費及び一般管理費		
販売促進費	437	410
給料手当及び賞与	371	360
退職給付費用	21	46
役員退職慰労引当金繰入額	1	1
貸倒引当金繰入額	5	-
減価償却費	21	14
その他	503	470
販売費及び一般管理費合計	1,362	1,303
営業損失()	171	261
営業外収益		
受取利息	5	6
受取配当金	242	243
持分法による投資利益	27	22
その他	8	91
営業外収益合計	283	363
営業外費用		
支払利息	10	7
固定資産除売却損	8	15
為替差損	11	-
その他	1	1
営業外費用合計	32	23
経常利益	79	78
特別利益		
投資有価証券売却益	10	-
特別利益合計	10	-
特別損失		
投資有価証券評価損	185	43
特別損失合計	185	43
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	95	35
法人税、住民税及び事業税	2	2
法人税等調整額	20	11
法人税等合計	18	14
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	77	20
四半期純利益又は四半期純損失()	77	20

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	77	20
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	578	537
その他の包括利益合計	578	537
四半期包括利益	656	558
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	656	558

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	30 百万円	46 百万円
支払手形	16 "	19 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	359百万円	333百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	336	20.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	336	20.00	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,593	459	80	4,133		4,133
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	3,593	459	80	4,133		4,133
セグメント利益又は損失()	38	1	35	4	167	171

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,314	496	70	3,881		3,881
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	3,314	496	70	3,881		3,881
セグメント利益又は損失()	114	10	28	97	163	261

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()	4円61銭	1円24銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(百万円)	77	20
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は普通株式に係る四半期純損失金額()(百万円)	77	20
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,810	16,801

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月13日

名糖産業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮 本 正 司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 豊 田 裕 一

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている名糖産業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、名糖産業株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。